



京都市教育委員会
教員養成支援室

第3回京都市教育学講座 中堅教員2名による実践発表
「子どもを豊かに育む教育」



第3回は、2名の中堅教員の方に実践発表をしていただきました。2名とも教師塾の卒塾生で、下鳥羽小学校の河村敬士先生は5年生の担任を、大宅中学校の古賀楓子先生は2年生の担任で数学科を担当されています。河村先生は、「行きたいと思える学校教育を目指して」というテーマで、困りを抱える児童への支援について、その原因や背景を広い視野で考えることの重要性や、ミドルリーダーとして、組織全体のワークライフバランスの充実に向けた業務改善を率先して提案するなど、これまで取り組まれた実践をお話いただきました。また、古賀先生は、「心理的アプローチを使った学級経営」というテーマで、多くの事例を示しながら様々な心理的アプローチの効果・手法の紹介や、「意図・理性」のある指導の重要性、チームで仕事をする意識やざっそう（雑談・相談）の大切さ等、自身の経験を踏まえながらお話しいただくとともに、これから教師を目指す上での学習方法等の助言をいただきました。

分散会では、実践発表者の2名に各会場を巡回していただき、教材研究の工夫や子ども・保護者への対応、困りを抱える子どもへの支援など、実際の指導で大切にしてきたことや、他の教職員との協働、ワークライフバランス実現のための工夫など、多岐にわたる質問に丁寧にお答えいただきました。



第2回特別講座 講師:学校指導課 栗本 浩行 首席指導主事
「確かな学力を培うための京都市の取組～授業改善や教材研究などの実践～」

第2回は京都市教育委員会学校指導課の栗本浩行首席指導主事に、確かな学力を培うための京都市の取組についてご講義いただきました。今年度の全国学力学習状況調査では、京都市は小学校・中学校ともに全国トップ水準の調査結果が出ています。こうした結果は、これまで学校現場で積み重ねてきた様々な取組の成果であり、その中でも主な取組内容について、①学習支援プログラムと京都市スタンダード、②授業改善の取組、③「知・徳・体」調和のとれた資質・能力の育成の大きく3つの視点で資料を示しながらお話されました。小中一貫した学習システムによる段差の解消や京都市独自のスタンダード（指導計画）を全教科等で作成、校内研修や研究会活動を通じた授業改善の工夫、伝統文化体験事業やキャリア教育など、「知・徳・体」をバランスよく育むことの重要性について説かれました。講座では、その他にも多くの取組を紹介しており、教員に採用されてからも役立つ情報ですので、是非参考にしてください。



仲間のレポートに学ぶ

1組



第3回京都市教育学講座【実践発表】 「子どもを豊かに育む教育」を受講して

本講義では中堅教師による実践報告を伺い、子どもを豊かに育む教育とはどのようなものか考えを深めた。私はその中で特に行動の大切さ、難しさを学び、「思ったことを行動に移す力」を本講義のキーワードと捉えた。

河村先生は、不登校の児童の家に毎日通い、登校の動機として学校の畑を借り、また野菜を育て上げた努力を保護者にも見てもらうために、栽培した野菜を使った調理実習に保護者を招いた、という体験談をお話されていた。「その子どもに必要な対応は何か」を深く考えた上で、必要があれば管理職の先生に交渉をしながらするべきだと判断した行動を実践されていた。また、業務上のシステムに疑問があればすぐに伝え、改善に繋げているというお話もあった。

古賀先生は、教員になってからも成長を目指し、より良い教育のため心理学を学び、その知識を適切に教育現場に落とし込み実践されていた。

お二方の実践報告から、思いを行動に移すには、裏付けとなる知識、然るべきところで人に頼ることが出来る力と関係性を要することを学んだ。

知識は学生の間にも蓄えられるが、その上で教師になってからも満足することなく常に高みを目指し続け、成長を目指し続ける姿勢を持つことが何より重要だと思う。このことは古賀先生も言っておられたが、私も事前課題の中でも記述していたので嬉しかった。教員になってから公認心理士の資格を取得された古賀先生は、まさに私が理想とする「学び続ける教師」であり、少し漠然としていた理想像の具体化に繋がった。十分な知識を身につけても自分1人でできる行動には限度がある。助けが必要なときは頼り、助け合うことも欠かせないということが話の中でもあった。そのためには普段からコミュニケーションをとり、良い関係性を築くことが必要になる。これまでの講義でも登場した「チーム学校」である。

教育学講座で得た知識同士が結びつき、さらに理解や考えが深まっていく感覚はとても楽しく、学びの意欲につながっている。次回もこれまでの学びを活かし資質能力について考えを深めていきたい。

「この子を何とかしたい」と“思う”ことがスタートですね。その子の今の状態に対して何が有効か、その子を見つめ、可能なことを見出していかなくてはなりません。その判断には、これまでの経験と知識が生きてきます。さらに、書いているように“交渉しながら”つまり、学校体制の中で理解と協力があってこそ、行動に移せます。普段から、周りの人と話せる関係でいることが「必要な時に頼り、助け合う」ことにも繋がります。事前課題が活きましたね。経験を理論で確認し軌道修正しさらに深め、学んだ理論を次の実践の芯としていきたいです。目指すは「学び続ける教師」です！ ～レポート担当スタッフからのコメント～

2組



3組



4組



5組



6組



7組



8組



子どもたちの今と未来のため、社会のあらゆる場で
学びの力を発揮し、実践しましょう！



補講(11/17)の様子